

2簡単な操作とDB接続設定

※サンプルのEXCELブック「Sample.xlsx」が「SQLExcelの使い方について」フォルダに有りますので、こちらで練習してみてください。

DB接続設定を行うと、Windows用のドライバを提供しているデータベースを利用可能です。

※自動コミットですので、ロールバックできない事に注意してください。

※EXCEL行の最大値までしか結果を表示しません。

※SELECT結果が多く処理時間を要する場合、しばらく待つと結果は表示されます。

待ちきれない場合は筆者は強制終了していました（SQLは都度接続ですので影響はEXCELシートのみ）

データベース（テーブル）のルールは2つ（作成したEXCELシートをテーブルとして利用可能）

- ・1行目が見出し（必須）
- ・2行目以降がデータ行

※EXCELの場合、テーブル名は、[シート名\$]となります

※開いているEXCEL自身を利用する場合は、接続DB名に「EXCEL(ACTIVE)」を選択



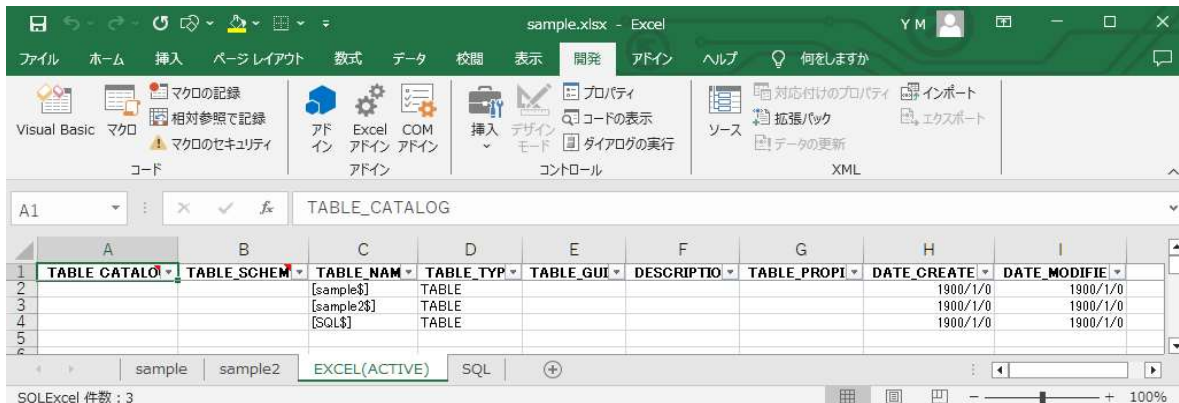
EXCELの空白部分で、「右クリック」-「ExecuteMenu」-「表名一覧表示(I)」を選択

※現在の接続で使用できるテーブル一覧を表示します。（今回は、今開いているEXCELブックのシート一覧）



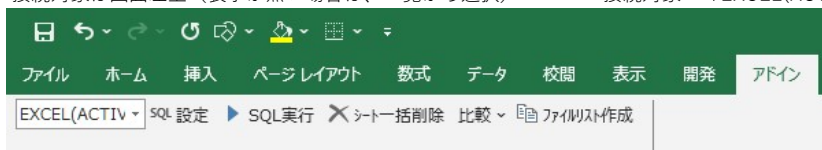
接続できる場合に結果シートが作成されます。（初回の接続確認に使用すると便利）

※対象の接続先は、以下の左上に表示されている「EXCEL(ACTIV)」です。



接続対象は画面左上（表示が無い場合は、一覧から選択）

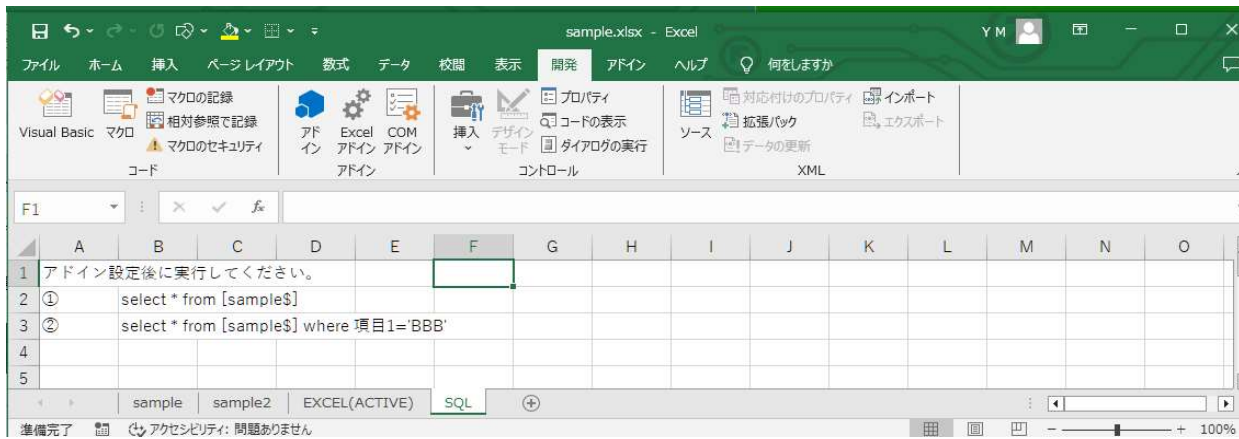
接続対象：「EXCEL(ACTIVE)」



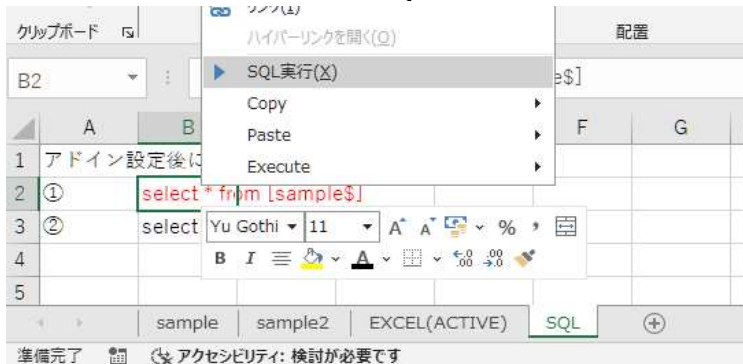
サンプルシート[sample\$]をテーブルとして利用してみます（SQL文が複数セルに分かれていた場合でも、複数選択で結合して実行します）

どのシートでも良いので、セルに以下のSQL文を記載（複数セルに分かれている場合は、複数セルを選択）

以下の①のSQL文（赤字部分）を右クリックして、実行してみてください。



①のSELECT文のセルを「右クリック」-「SQL実行(X)」を選択



新規シートが左側に現れて、結果を表示します。

※SQLを変更したり、他の接続先に変更して試してみてください。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1	項目	項目	項目	項目					
2	AAA	1	11	111					
3	BBB	2	22	222					
4	CCC	3	33	333					
5									
6									
7									
8									

The bottom of the window shows the 'SQL' tab selected in the worksheet tab bar, with the text '240506-143948' visible next to it.

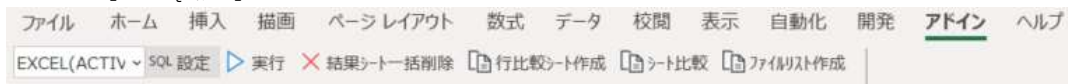
※②のSQL文は、Where条件付きです。余裕があれば実行してみてください。

以上でSELECT等の実行方法は以上です。

他のDBへの接続方法（Access、Oracle、SQLServer等）について補足します。

参照の仕組み（DB接続設定）

「アドイン」-「SQL設定」



「既定（選択）」-「EXCEL(ACTIVE)」を選択

EXCELの接続設定が表示されます。

ここで、「Provider」で選択されている「EXCEL」に注目してください



※既定の接続先（初期表示）を設定するには、「規定として登録」を押下

「Provider」タブをクリックし、「EXCEL」を選択します。

「Provider」に表示されている一覧がこちらの名称です。

記述してある内容は、DBへの接続文字列となります。

接続文字列を記述したい場合には、DBMS等の名称と一緒に"Windows Provider文字列"などと検索してください。

ProviderStrに固定値で全てを記述しても動作可能です。

ただし、汎用的に利用したい場合には、各DBMSを一つだけ記述して、パラメータを変更します。

左記の「%%SERVER」は接続タブの「%%ACTIVEPATH」と置換されます。（内部的に自身のEXCELを設定）

こちらの名称で大文字名称「SERVER Host」のテキスト文字列がProvider画面で%%SERVERとなります。

SERVER Host → %%SERVER

USER → %%USER

odbc/sid DB（規定） → %%DB

PORT → %%PORT

Windows認証 → %%WIN

EXTENDED Properties → %%EXTENDED

ORACLEでの接続例（矢印は接続対応を示す）

「接続」タブの対応値は、「%%」が先頭に付与されている

2簡単な操作とDB接続設定

SERVER host: SERVER01

USER: USER01

PASS: *****

DB odbc/sid: ORACLE_SID

PORT: 1521

provider: Oracle(Direct)

EXTENDED properties:

Provider=OraOLEDB.Oracle;Data Source=(DESCRIPTION=(ADDRESS=(PROTOCOL=TCP)(HOST=%%SERVER)(PORT=%%PORT))(CONNECT_DATA=(SID=%%DB)));User ID=%%USER;Password=%%PASS;Trusted_Connection=%%WIN

Comment: Oracle社 OLE DB接続

※OKボタンでは反映されません

登録 更新 削除

OK CLOSE

DB接続設定が完了した場合は、「表名一覧表示(I)」を実行して一覧を取得してみてください。

EXCELの空白部分で、「右クリック」-「ExecuteMenu」-「表明一覧表示(I)」を選択



正常に接続できた場合には、一覧シートが作成されてテーブル名の一覧が表示されます。